

「地理歴史（世界史）」の出題意図

本年度の世界史の試験問題では、歴史上の多様な事柄を広い文脈の中で考えてみる力を問うことを意図しました。教科書のなかでは異なった部分で説明されていることも、自分なりに整理して把握することが大切です。また、支配や差別、移動といった現象について、異なる地域と時代ごとに、どのような相違点や類似点があったのかを比較してみることも、歴史的な位置づけを深く考えるのに役立ちます。

第1問は、古代ローマ帝国の覇権崩壊から中世初頭までの地中海地域の歴史の変遷を主題としています。古代や中世の社会では政治・文化と宗教がとりわけ密接に結びついているため、特に以下の三点に関する理解を問いました。第一は、それまでキリスト教を中心的な宗教に位置づけて統治を行っていたローマ帝国の支配域が、民族移動などの影響を受けて、ゲルマン諸王国、ビザンツ帝国、イスラーム勢力に分かれていく政治的過程です。第二に、支配者層が入れ替わる中で被支配者との間で生じた宗教に関するさまざまな軋轢が、政治的変動といかに関わっているかという問題です。最後に、宗教的・言語的に特徴ある文化圏が形作られていくと同時に、その地理的範囲が時々の情勢に応じて変容を遂げていった過程を、先の二点と関連させながら叙述できるかどうかを問いました。

第2問では、支配や差別について歴史的に考えてみることをめざしました。身分制や集団間の不平等は、それを禁止する法律を制定したり反対運動を起こしたりするだけでは解消されないことがあります。社会のさまざまな構造と複雑に絡まりあっているため、一部だけの変更では不十分だからです。むしろ、構造が変われば、自ずと不平等が解消の方向に向かうこともあります。本問では、世界史上で根強く続きながらも変化することもあった身分制や不平等の問題をそのように構造的に捉え、歴史を動かす原動力を見出す力を問うことを意図しています。

第3問は、さまざまな人間集団が歴史を通じて行ってきた（および、強いられてきた）移動を主題としています。出題された具体的な事例は、時代においては古代から現代におよび、場所においてはアジア・ヨーロッパ・南北アメリカ・オセアニアを含みます。また移動の性質も、商業活動、征服・入植、難民や労働移民など多岐にわたっています。本問では、これらの移動に関する基本的な知識を問いつつ、あわせて、歴史上の国家や社会、さらには文化が、決して固定的もしくは「純粋な」性質を維持してきた存在ではないことを確認してもらうことも意図しています。

【第2問の解答】

問(2) (a)ホセ = リサール (リサールも可)

問(3) (a)アパルトヘイト (アパルトヘイト政策も可)

【第3問の解答】

(1) 安史の乱

(2) 両シチリア王国 (ノルマン = シチリア王国、シチリア王国も可)

(3) ガズナ朝 (ガズニ朝も可)

(4) メスティーソ (メスティソ、メスチーソ、メスチソも可)

(5) 鄭成功

(6) ナポレオン (ナポレオン = ボナパルトも可)

(7) マオリ (マオリ族、マオリ人も可)

(8) ジャガイモ飢饉 (じゃがいも飢饉、アイルランド飢饉、アイルランド大飢饉も可)

(9) 大韓民国臨時政府

(10) ベルリンの壁